

高尾山の自然と歴史を語り継ごう会

平成20年から太宰府市文化遺産調査ボランティアの太宰府南小学校区班として、校区(高雄・高雄台・梅香苑・緑台・梅ヶ丘)の文化遺産の調査を開始しました。

平成25・26年には、高雄の歴史などを住民や南小学校児童に啓発活動していたグループと交流することになりました。その意見交換する中で「高雄の自然と歴史」を市民遺産に登録し、後世に伝えていこうという気運が盛り上がり、新たに「高尾山の自然と歴史を語り継ごう会」という会をつくりました。

会では、高雄地区の豊かな自然と誇るべき文化遺産を記録にとどめると共に、これらを地域住民や子どもたちに伝え、未来の人々へ残す活動を行っています。



<活動内容>

- ①高雄地区の文化遺産の周知活動
 - ・文化遺産めぐり
 - ・公民館や文化祭での展示
 - ・出前講座、講演会(小学校、中学校)
- ②高雄地区の文化遺産調査
 - ・古道、風習、遊び、唄等の調査
 - ・文献調査
- ③高雄地区の「豊かな自然」の保護活動
 - ・生き物観察会(高雄公園ビオトープの活用等)
 - ・高尾山や高尾川の清掃活動(定期的)

太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・人・出来事。これを将来に伝えていきたいと思う物語と、守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切なんだと納得したものです。

太宰府市民遺産(太宰府市景観・市民遺産会議で認められた宝)
 =守り・育てたいモノ + 守り・育てたいモノが歩んできた物語 + 守り・育てたい「ちから(活動)」
 「ちから(活動)」の源となる物語(・思い)



■例えば

- まちづくりの基礎をつくりあげた人
- 四王寺山の堂々たる姿が見える場所
- いつもお詣りしているお地藏さん
- 道ばたにある、むかしの道標
- 40年つづく団地の夏まつり



太宰府市民遺産ロゴマーク
<http://市民遺産.jp>

など、未来に伝えたい太宰府の個性がたくさんあります。

高雄の自然と歴史

太宰府市民遺産:第11号
 認定:平成27年2月21日
 景観・市民遺産育成団体:
 高尾山の自然と歴史を語り継ごう会
 発行:太宰府市景観・市民遺産会議
 (公財)古都太宰府保存協会
 発行日:平成27年7月18日



平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金
 (文化遺産を活かした地域活性化事業)



太宰府市民遺産

第11号

高雄の自然と歴史



高尾山の自然と歴史を語り継ごう会

高雄の位置と自然



高雄の田園から望む宝満山



高雄のホタル



高尾川



片谷温水溜池

高雄地区は太宰府市の南東に位置し、標高151mの高尾山に連なる丘陵地帯で、中央部には高尾山を源流とする高尾川が流れる自然豊かなところ。片谷温水溜池、今王池、吉ヶ浦池等の農業用溜池が点在し、田畑を潤しています。

現在、高雄地区は開発が進み市街地となりつつありますが、四王寺山から望むと、高尾山一帯は木立が茂り、豊かな自然が残されていることがよくわかります。さらに、山中にはテン・タヌキ・野ウサギ・アナグマなどの小動物が生息しています。さらに四季折々に、メジロ・カモ・ウソ・カワセミ・ヒヨ・モズなど様々な鳥類を見ることが出来ます。また、高尾山を源流とする高尾川では、上流にはホタル、中流にはハヤ・コイ・フナなどの姿を見ることが出来ます。

高雄の歴史

高雄地区には、弥生時代の竪穴住居跡や甕棺墓群が発見された吉ヶ浦遺跡や、菖蒲浦古墳群、下高尾古墳、今王古墳などの古墳が点在していました。江戸時代には銅銚11点が出土した記録もあり、弥生時代から人々が高雄地区に生活していたことがうかがえます。その中でも昭和51年(1976)の太宰府南小学校建設に伴って行われた菖蒲浦古墳の調査では、割竹形木棺から方格規矩鏡や鉄剣などの貴重な副葬品が出土しています。

戦国時代になると、高尾山に高尾山城が築造され、今も段造成や堀切等の遺構が残されています。江戸時代には、日田方面から太宰府天満宮への参詣道が丘陵上を通り、多くの人々が往き来しています。江戸末期の紀行文『安楽寺参詣日記』には「さばかり高からぬ山なれど遠近が見渡されて心ゆく所なり」と記されています。

また、高尾山山頂には大行事塔があり、毎年9月の太宰府天満宮神幸式大祭の前に神事が行われます。他にも高雄地区には石像・石仏をはじめとする文化遺産が数多く存在しています。高雄公民館近くには、大行事塔・猿田彦大神があり、屋敷神として大師・薬師如来などの石仏が祀られている家もあります。また、太宰府高校近くには菅原道真の隨身者のお墓と伝えられる祠もあります。その他にも、地蔵公園に祀られる大師・不動明王・地蔵や高雄公園そばの地蔵や一字一石塔は、それぞれ筑紫四国の十二番札所、二十九番札所として地域における信仰の対象となっています。



大行事塔



筑紫四国第十二番札所



竪穴住居跡(吉ヶ浦遺跡)



菖蒲浦古墳から出土した布に包まれた鏡



高雄に暮らす人々の生活にとって高尾山や高尾川は欠かすことのできないものでした。大正時代から昭和中期まで一帯の丘陵地は採草地として利用され、高雄方面から太宰府小学校に通う小学生からは「ミソッチョ山」と呼ばれ、学校帰りに木の実(ミソッチョ)を採って食べたりと格好の遊び場でもありました。また、周辺の溜池も、夏は水泳、秋の農閑期は池を干して魚を捕まえ、冬場の食料にするなど住民の暮らしに密着していました。

現在丘陵地は住宅街となってしまいましたが、今でも各所に文化遺産や自然が残っています。

※高尾山については、美化センターや個人地があり、自由な立入が禁止されています。会では許可を得て山に入る活動を行っています。